



2016年3月期 第2四半期決算説明会

2015年10月29日

株式会社 セゾン情報システムズ

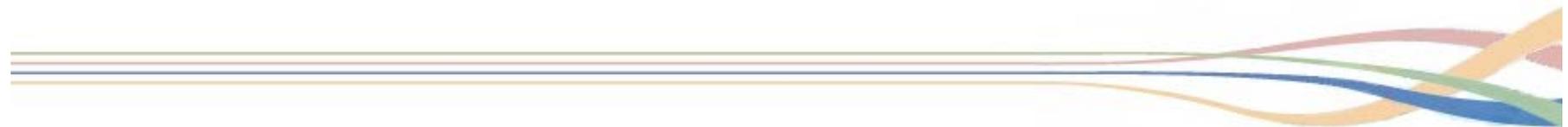
第1部 2016年3月期第2四半期決算概況および 2016年3月期業績予想について

取締役 経営企画室長
赤木 修

第2部 2016年3月期事業概況と今後について

代表取締役社長
宮野 隆

2016年3月期第2四半期決算概況および 2016年3月期業績予想について



連結業績

連 結 (単位：百万円)	2016年 3月期 第2四半期	前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率
売上高	14,485	15,363	878	▲5.7%
売上総利益	4,267	3,627	640	17.6%
売上総利益率	29.5%	23.6%		5.9P
営業利益	1,734	1,290	444	34.5%
営業利益率	12.0%	8.4%		3.6P
経常利益	1,738	1,321	417	31.5%
四半期純利益	1,171	812	359	44.1%

連結業績 ハイライト

売上高

14,485百万円
(前期比5.7%減)

- カードシステム事業において、既存顧客向け大型システム開発案件が減少
- エンタープライズ・ソリューション事業において、既存顧客向けの機能追加・改善等のシステム開発が減少
- BPO事業において、既存顧客向け機能追加や新規導入に係るシステム開発案件が減少
- HULFT事業において、HULFTおよび関連製品の販売が堅調に推移

営業利益

1,734百万円
(前期比34.5%増)

- HULFT事業において、収益性の高い製品販売および保守販売が堅調に推移したことによる利益増加
- カードシステム事業において、前期の損失計上から黒字転換
- エンタープライズ・ソリューション事業において、売上高の減少に伴い収益性が低下し、その結果利益減少
- BPO事業において、新規顧客向けシステム開発に係る不採算案件の発生および、Bulas関連システムの改善コストの増加等により損失拡大

四半期純利益

1,171百万円
(前期比44.1%増)

- 上記営業利益の増加等に伴い、純利益も増加
- BPO事業において、新規導入に係るシステム開発にて営業損失計上および、特別損失計上に伴う利益減少
- 投資有価証券の売却に伴う特別利益計上により利益増加

連結業績 第2四半期業績予想の修正と実績差異

連結 (単位：百万円)	2016年3月期第2四半期				
	決算発表 (15/10/28公表)	業績予想の修正 (15/10/14公表)			
	実績値	業績予想 (15/10/14公表値)	業績予想 (15/5/8公表値)	増減額	増減率
売上高	14,485	14,400	13,700	700	5.1%
営業利益	1,734	1,760	1,170	590	50.4%
営業利益率	12.0%	12.2%	8.5%	3.7P	
経常利益	1,738	1,770	1,180	590	50.0%
四半期純利益	1,171	1,190	750	440	58.7%

2015年10月14日に、2016年3月期第2四半期業績予想の修正を公表いたしました。理由は、HULFT事業において、HULFT関連製品の販売が好調であり、新規大型案件の獲得等により利益率と売上高の拡大となっております。また、カードシステム事業、エンタープライズ・ソリューション事業、その他事業が当初想定を上回る業績見通しとなったことでもあります。

事業セグメント別 連結売上高

連結 (単位：百万円)	2016年3月期 第2四半期		前期との比較			
	実績	構成比	前期実績	構成比	増減額	増減率
カードシステム事業	4,382	30.3%	5,011	32.6%	▲628	▲12.5%
エンタープライズ・ソリューション事業	4,707	32.5%	5,210	33.9%	▲502	▲9.6%
BPO事業	733	5.1%	850	5.5%	▲117	▲13.8%
HULFT事業	3,625	25.0%	3,370	21.9%	254	7.6%
その他事業	1,036	7.2%	920	6.0%	116	12.6%
合計	14,485	100.0%	15,363	100.0%	▲877	▲5.7%

※今期第1四半期連結会計期間からの組織変更に伴い、従来の「金融システム事業」のうち、クレジットビジネスを対象とした事業を「カードシステム事業」に名称変更し、その他の法人向けのシステム化事業と「流通サービスシステム事業」を事業統合のうえ、セグメントを「エンタープライズ・ソリューション事業」に変更しております。

事業セグメント別 連結営業利益

連結 (単位：百万円)	2016年3月期 第2四半期		前期との比較			
	実績	構成比	前期実績	構成比	増減額	増減率
カードシステム事業	593	34.2%	▲160	▲12.5%	754	—
エンタープライズ・ ソリューション事業	188	10.8%	291	22.6%	▲102	▲35.4%
BPO事業	▲677	▲39.1%	▲275	▲21.3%	▲402	—
HULFT事業	1,524	87.9%	1,387	107.5%	137	9.9%
その他事業	188	10.8%	124	9.7%	64	51.3%
調整額	▲81	▲4.7%	▲76	▲6.0%	▲5	—
合計	1,734	100.0%	1,290	100.0%	444	34.5%

連結受注実績

連 結 (単位：百万円)	受注高			受注残高		
	2016年 3月期 第2四半期	前期との比較		2016年 3月期 第2四半期	前期との比較	
		前期実績	増減率		前期実績	増減率
情報処理サービス	12,880	7,336	175.6%	16,443	11,152	147.4%
システム開発	4,536	5,145	88.2%	3,143	2,439	128.9%
パッケージ販売	4,041	3,696	109.3%	3,199	2,786	114.8%
システム機器販売	381	404	94.3%	44	430	▲89.8%
合計	21,839	16,582	131.7%	23,452	16,809	139.5%

主要顧客別 連結売上高

連 結 (単位：百万円)	2016年3月期 第2四半期		前期との比較			
	実績	構成比	前期実績	構成比	増減額	増減率
(株)クレディセゾン	4,847	33.5%	5,038	32.8%	▲191	▲3.8%
(株)キュービタス	1,218	8.4%	1,822	11.9%	▲604	▲33.2%
日本アイ・ビー・エム(株)	233	1.6%	655	4.3%	▲422	▲64.4%
(株)NTTデータ	380	2.6%	430	2.8%	▲50	▲11.6%
(合)西友	488	3.4%	310	2.0%	178	57.4%
主要顧客売上高計	7,167	49.5%	8,257	53.7%	▲1,090	▲13.2%
売上高	14,485	100.0%	15,363	100.0%	▲878	▲5.7%

連結貸借対照表

連 結 (単位：百万円)	2016年 3月期 第2四半期	前期末との比較		
		前期末実績	増減額	増減率
流動資産	13,948	15,492	▲1,544	▲10.0%
固定資産	10,897	10,146	751	7.4%
資産合計	24,845	25,638	▲793	▲3.1%
流動負債	10,749	12,355	▲1,606	▲13.0%
固定負債	1,739	1,984	▲245	▲12.3%
負債合計	12,489	14,339	▲1,850	▲12.9%
純資産合計	12,356	11,299	1,057	9.4%
負債純資産合計	24,845	25,638	▲793	▲3.1%

【主な増減要因】

現金及び預金（資産）：▲1,535（15/3末：7,134→15/9末：5,599）

製品保証引当金（負債）：▲2,541（15/3末：5,876→15/9末：3,335）

※今後の製品保証対応等による資金減少に備え、8月に投資有価証券の売却を実施

2015年8月31日公表「特別利益の計上に関するお知らせ」：売却益386百万円計上

2016年3月期 連結業績予想

連 結 (単位：百万円)	2016年 3月期	前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率
売上高	29,700	30,485	▲785	▲2.6%
営業利益	3,180	▲4,123	—	—
営業利益率	10.7%	—	—	—
経常利益	3,190	▲4,081	—	—
当期純利益	2,080	▲4,707	—	—

2015年10月14日に、2016年3月期第2四半期業績予想の修正を公表いたしました。通期業績予想の修正については、今後の業績進捗を慎重に見極めたうえで、公表すべき場合は速やかにお知らせいたします。

基準日	1株当たり配当予想		
	第2四半期末	期末	合計
2016年3月期予想	0円	未定	未定
2015年3月期実績	10円	0円	10円

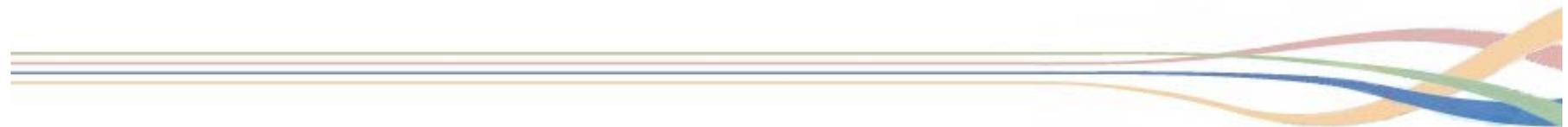
当社の配当に関する基本方針(※)は継続いたしますが、今期は資金状況等を鑑みて、中間配当を行わず、通期配当に一本化させていただきます。

なお、年間配当予想は現時点では未定とし、具体的な金額は、業績進捗や資金状況を見極めながら慎重に決定させていただきます。

(※)当社の配当に関する基本方針

1. 連結当期純利益の3割前後を目安にした配当確保
2. 万一の業績悪化時にも、1株当たり10円の配当金を維持

2016年3月期事業概況と今後について



変革・実行・成長

変革

事業体制の強化

技術力・開発力の強化

- ・事業強化のため組織を再編、新組織にて変革を行う
- ・事業の根幹である技術力・開発力の強化のための変革
- ・組織力強化のための変革を行う

実行

大型システム開発完遂

重点施策の実行

- ・対応中の大型システム開発案件を確実に実行
- ・重点施策を成果に結びつける実行

成長

事業成長の加速

人材育成・教育

- ・HULFTの国内/グローバル展開等による継続的成長
- ・ストックビジネス拡大、新規ソリューション展開等でも成長
- ・社員教育の強化による、階層・職能別のスキル向上
- ・変革、実行、の施策もあわせ、全社の成長を推進

変革

- ☆ **金融システムと流通サービスシステムの両事業を、カードシステム事業とエンタープライズ・ソリューション事業へと再編**
- ☆ **事業再編によるリソースの集約により、機動的に人材を活用できる体制へ変更。顧客別戦略の明確化、GeneXusの活用等による生産性向上策、各種コスト低減の推進による収益力強化等の施策を推進中**
- ☆ **技術力・開発力の強化の施策として、全社横断でのプロジェクト推進、品質管理の体制強化**

実行

- ☆ **大型システム開発案件の当社が対応するシステムについて、事業部一丸となり実行中**
- ☆ **各事業における、受託型／サービス提供型の各種システム開発案件を完遂に向けて実行中**

成長

☆ HULFTが国内外で成長加速

- ・国内では、昨年末リリースのHULFT8を新たな軸に高収益の製品販売が前年比10%増と販売好調
- ・グローバルでは、シンガポール拠点が順調に立ち上がり、北米マーケットへの進出準備も本格化

成長

☆ 新サービスの拡充・開発

- ・データセンタービジネスのサービスラインナップ拡充・サービスレベル向上のため、ディザスタリカバリサービスの提供準備
 - ・その他、サービス提供型による新規サービスの企画・開発を複数案件で取り組み中、来年にかけて順次リリース予定
- 将来成長に向けてサービス提供型システムの拡大を推進

☆ グループ会社の利益貢献加速

- ・子会社フェス、アプレッツォが好調で連結利益への貢献進展

既存顧客大型システム開発案件の完遂

< 2016年3月期のポイント >

◆ 既存顧客向けの大型システム開発案件の確実な遂行

※当社が対応するシステムについて、事業部一丸となり実行中

獲得した新規開発案件の確実な遂行、幅広い業種の新規顧客獲得によるストック型ビジネスの創出

< 2016年3月期のポイント >

◆ SI系リソース集約による事業展開の強化

- ・既存顧客の深耕に注力、新規案件への参入強化
- ・リソース集約による生産性の向上、ノウハウ共有を一層推進

◆ 各種サービス展開を強化

- ・独自の新品「STORESクラウド」の開発の推進
(機能拡張対応等によりリリース時期を見直し)
- ・既存サービス(SAISOS、経費精算システムの「カンカ」関連ビジネス等)を推進
- ・新規サービス・ビジネス開発を強化
※ディザスタリカバリサービス提供開始(10月～)

◆ 技術力・開発力・品質の向上施策を推進

トピックス：新サービス紹介

(15年10月28日よりサービス提供開始)

クラウド型ホスティングサービス「SAISOS」(当社データセンター)のオプションとして、ディザスタリカバリサービス (DRサービス) 【※1】の提供開始

◆目的：

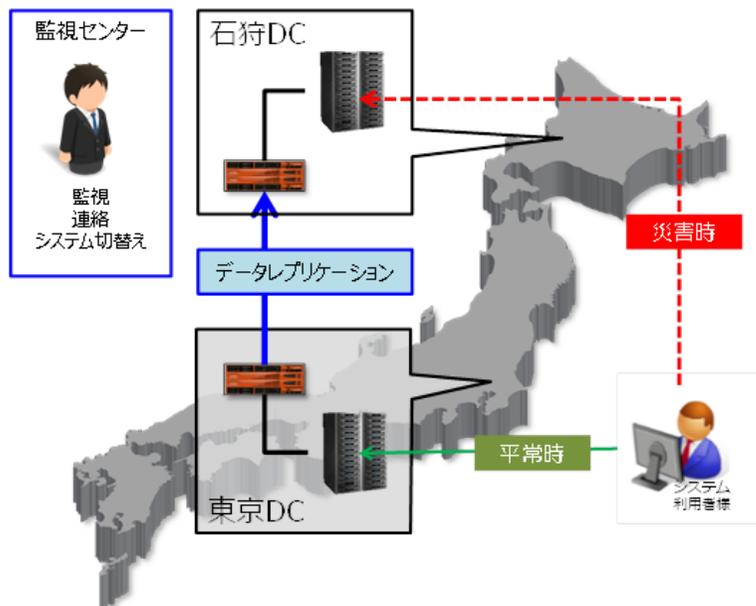
データセンタービジネスの競争力強化(差別化)

- ・サービスラインナップの拡充
- ・サービスレベルの向上



- ・ストックビジネスの拡大
- ・サービス提供型ビジネスの拡充

(イメージ図)



◆優位性・特徴

- ①最新のデータ仮想技術(アクティブオ【※2】)を活用した仕組みにより、他社DRサービスと比べメリットある価格を提供可能
- ②お客様ごとの対策レベルにあったサービス提供が可能
- ③バックアップセンターとの切替容易、平常時の起動試験も可能

※1：ディザスタリカバリ

自然災害などで被害を受けたシステムを復旧・修復することであり、そのための備えとなる機器やシステム、体制を含むこともあります。

※2：アクティブオ

先進的なテクノロジーであるコピーデータを仮想化して管理するためのプラットフォームです。システムバックアップ、業務データバックアップ等、用途の異なるバックアップデータを業務やアプリケーションを意識することなく仮想化し一元管理することでデータ量を抑制し、ストレージコストの圧縮やネットワーク帯域の抑制を実現します。複雑な運用を簡易的、かつコストを抑えたデータ管理を可能にするソリューションです。

次期「Bulas」開発の対応を含め事業方針を見直し、
既存サービスの生産性向上活動とあわせて取り組む

< 2016年3月期のポイント >

- ◆次期「Bulas」開発のリリース延伸、開発計画の見直し
- ◆利益率改善に向けた取り組みを推進
 - ・給与計算サービスにおける生産性向上活動の継続
- ◆マイナンバー制度関連サービスを順次リリース予定

HULFT関連製品の拡販による売上拡大および、新たなマーケット進出を目指した展開の強化

< 2016年3月期のポイント >

◆ HULFT関連製品の拡販

- ・ “徹底的に” HULFTを拡販
- ・ 国内潜在市場開拓

連結売上75億円
(前年比7%超の成長)
の実現を目指す

◆ グローバル展開を一層推進

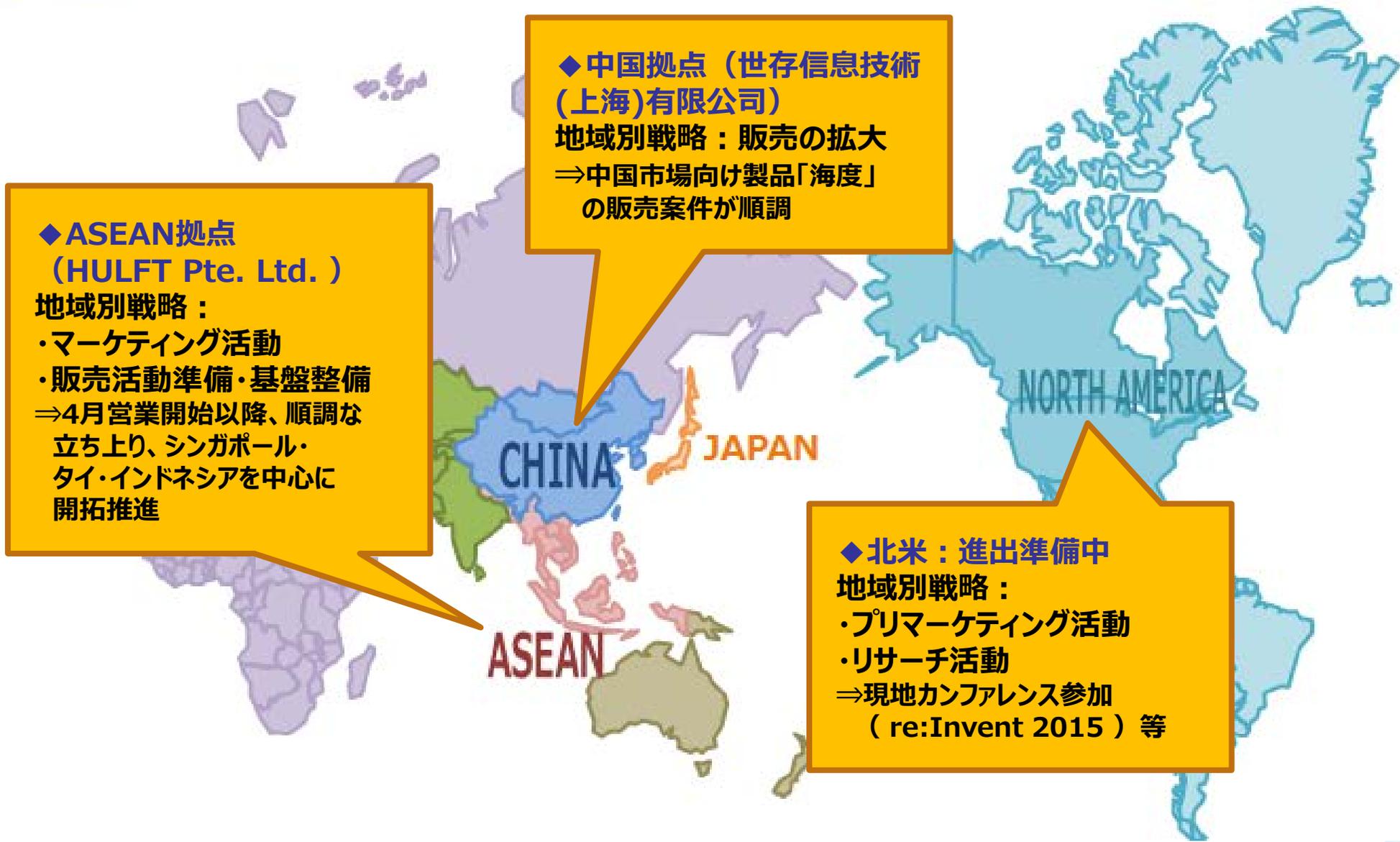
- ・ シンガポールを拠点としたASEAN地域での継続活動
- ・ マーケットのリサーチ、進出形態検討等北米展開にむけた準備

◆ (株)アプレッツとのシナジー効果拡大

- ・ 共同開発の推進、販売体制統合による売上の更なる拡大

◆ HULFTの高いクオリティの維持、さらなる向上

HULFTグローバル展開活動



➤ Amazon Web Services, Inc. re:Invent 2015

(ラスベガス 10月6日～10月9日)

AWSのファイル連携はFTPを使用していることが多いため、FTPユーザを対象に、FTPの問題点とHULFTの魅力を発信。また、様々なネットワーク構成があるAWSに、HULFTはどんなネットワーク構成においても、高速かつ確実にファイル転送ができることをアピール。



➤ 日経BPアジアICTカンファレンス2015

(ジャカルタ 10月27日)

今後予定されているASEAN経済共同体（AEC）の発足によりASEAN地域の経済の活性化が予測される。今後の販売にむけてASEAN地域でのブランド認知度向上を目指す。

AWSによって発表された「AWS Leadership Award」において、当社製品の「HULFT」が、「Think Big」賞を受賞いたしました。

「AWS Leadership Award」はAWSのリーダーシップ理念である
Customer Obsession
Learn and be Curious
Think big
Invent&Simplify
を体現したパートナーに贈られる賞です。

当社が受賞した「Think Big」賞は、従来と異なる新たな視点を持って、あらゆる可能性を考案し、大胆な方針と方向性をもって、長期的な視点でビジネスを大きな成果に導くというAWSの理念を体現したビジネスパートナー企業に贈られる賞です。

今年度は、世界有数のAWSビジネスパートナーの中から9社のみが選出されました。当社はデータ連携ミドルウェア「HULFT」のクラウド分野での総合的な取り組みが評価され、初の受賞となりました。



継続的な成長を目指して

新中期経営計画
を策定開始
(16年4月公表予定)

第五期中期

布石を成果に
～成長は挑戦の先に～

第三期中期

存在価値の高い企業へ

第二期中期

顧客創造企業へ

第一期中期

変化への挑戦

【経営方針】
・ 商品サービス
価値向上
・ 人材価値向上

【成果】
- 加セル体制推進
- SAISOS創出
- HULFTクラウド創出
- BPOセンター開設

【経営方針】
・ 5つの改革
(事業、組織、人事、
業務、企業風土)
【成果】
- 組織数の適正化
- 営業体制見直し
- 社内システム機能集約
- システムセンター統合

【経営方針】
・ 営業力の強化
・ 商品/サービスの拡充
・ 人材育成と活用

【成果】
- データセンター一極集中
- 新規顧客数増加
- スtock「ジ」収拡大
- 資格取得率向上

第四期中期

【経営方針】
・ 事業基盤の拡充
・ 競争力の強化
・ 人材の育成と確保

<免責条項>

本資料は、決算の状況および今後の経営方針、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

本説明会および資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、その実現・達成を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。